

令和元年度日本小児外科学会
第6回定例理事会議事録

日 時：令和2年1月16日（木） 11：00～16：00

会 場：大阪大学東京オフィス

出席者：田尻達郎（理事長）、増本幸二（副理事長）、山高篤行（会長・理事）、黒田達夫（次期会長・理事）、臼井規朗、金森 豊、野田卓男、浮山越史、大植孝治、田中 潔（以上理事）、八木 實（監事）、越永従道（前理事長）、藤野明浩（庶務委員長）、浦尾正彦（財務会計委員長）、照井慶太（庶務副委員長）、上原秀一郎（財務会計副委員長）、宮野 剛（庶務委員）、米田光宏（施設認定委員会委員長）、小野 滋（専門医認定委員会委員長）、古村 眞（専門医制度庶務委員会委員長）、米倉竹夫（第35回秋季シンポジウム会長）、廣部誠一（第36回秋季シンポジウム会長）、瀧本康史（国際・広報委員会委員長）、古田繁行（保険診療委員会委員長）、仁田尾慶太（事務局）

欠席者：窪田正幸（監事）

議事案件：

議 事：

1. 第6回定例理事会の議事録署名人は、増本幸二副理事長、臼井規朗理事とした。
2. 令和元年度第5回定例理事会議事録につき、事前配信された内容について確認され、修正点等あれば1週間を目途に事務局に連絡することとした。

3. 審議事項

1) 第57回学術集会について（山高会長、宮野庶務委員）

山高会長および宮野庶務委員より資料に基づき、進捗状況が報告され、承認された。演題の査読者を増やした点、総会を2日目の夕方に開催する方向で準備している点、評議員懇親会の会費を上げる点、今後は製薬業界からの寄付も無くなる可能性が高いという情報について報告された。

日時：令和2年5月21日（木）、22日（金）、23日（土）

会場：都市センターホテル

テーマ：小児医療システムの擁護と支援：子どもが最初、いつだって

2) 第58回学術集会について（黒田次期会長）

黒田次期会長より、プログラム案等の進捗状況が報告され、承認された。会場費の一部を前払いしているため、援助金の前払いについて確認があり、了承された。

日時：令和3年4月28日（水）、29日（木）、30日（金）

会場：パシフィコ横浜ノース

テーマ：自然の臣たる無かれ

3) 第35回秋季シンポジウムについて（米倉前秋季シンポジウム会長）

米倉前秋季シンポジウム会長より資料に基づき、参加者数等が報告され、承認された。

4) 第36回秋季シンポジウムについて（廣部秋季シンポジウム会長）

廣部秋季シンポジウム会長より資料に基づき、進捗状況が報告され、承認された。看護師の参加を促進する計画について了承されたが、看護師の参加費の設定については検討していくこととした。抄録の文字数については、2次抄録の経費の問題があり、以前のごとくPSJM側は400字、秋季シンポは800字とした。また、秋季シンポからPSJM側に移行した演題では800字のままで対応することとした。今後の検討課題として、スポンサーの減少に対して、会場の固定化などの工夫で経費を抑え、学会準備でシンポジウムの内容に集中できることが望ましい意見が上がった。

日時：令和2年11月7日（土）

会場：一橋講堂

テーマ：手術の新しいデバイスと工夫

5) 第37回秋季シンポジウムについて（金森次期秋季シンポジウム会長）

金森次期秋季シンポジウム会長より、進捗状況が報告され、承認された。運営会社を決定した点、会場費の一部を先に支払わなければならないことによる援助金の前払いについて、了承された。

日時：令和3年10月30日（土）

会場：ベルサール神田

テーマ：小児外科疾患に対する再生医療・細胞療法研究と応用

6) 第38回秋季シンポジウムについて（田尻理事長）

田尻理事長より資料に基づき、昨年10月に開催された秋季シンポジウム委員会の議事録の内容が確認され、第38回秋季シンポジウムのテーマは「小児外科治療後のサルベージ」（小児外科治療後の合併症発症例や稀な経過を辿った症例に対する再手術やサルベージ手術・処置の経験や成績を共有する）、会長に野田卓男先生（岡山大学）が決定したことが報告された。

7) 各種委員会報告および審議事項

(1) 庶務委員会（藤野委員長）

藤野委員長より、資料に基づき報告がなされた。

2019年12月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,749名（うち海外1名）、評議員324名、名誉会員57名（うち海外5名）、特別会員69名（うち海外1名）の合計2,199名である。また、厚生労働省より行政処分一覧のリストが届きチェックしたところ、本会の会員は含まれていなかったと報告された。

次回理事会で事業計画と事業報告を提出する予定であると報告された。

(2) 財務会計委員会（浦尾委員長）

浦尾委員長より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・2019年度決算（中間）の報告がなされた。
- ・一般社団法人になり準会員の枠を設けたが、準会員が入会していないため、認定施設宛の勧誘文書を作成したと報告があり、一部修正した上で送ることが承認された。
- ・専門医制度の資料が学会支援機構の事務所のスペースを圧迫していると報告され、追加の倉庫を契約するか書類を保管する期限を決めて破棄するかが検討され、まずは倉庫にどのような資料が保管されているかを確認の上、再度検討することとした。

(3) 専門医制度委員会（米田施設認定委員会委員長、小野専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長）

米田施設認定委員会委員長、小野専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・2019年度の専門医更新審査の際、直近5年間の経験症例がNCD側の設定ミスにより、2014年1月1日～2018年12月31日までの所、2013年1月1日～2018年12月31日分で集計されていたことが判明し、重大ミスであるのでNCDに対して謝罪を求めたことが報告された。5年間で集計結果を確認したところ100例を満たさないケースがあり、該当者には認定登録医として合格通知を出したと報告された。また、外科専門医の連動更新は、設定ミスが判明する前に結果を外科学会に先に知らせていたため、このような経緯で合否判定の結果が覆ったことをまずはメールで知らせたこと、本理事会後に正式に文書で送る予定であると報告された。
- ・小児外科専門医を取得し開業された先生が更新できないケースについて、16歳未満でも専門医新規取得の際にカウントされない手術は、更新の際にもカウントされない（外科専門医修練カリキュラム 到達目標3の『⑧外傷』のみに挙げられている術式や、切創縫合などの一部の手術手技）と報告があり、開業された先生も小児外科専門医が更新できるような対応策を外科学会にも確認しつつ検討したところ、外科専門医と連動更新をしない場合は、更新できる可能性があると報告されたが、一部不明瞭な点が残ったため、今一度専門医の更新条件に関する症例を確認すること等を行うこととし、継続審議とした。
- ・海外経験症例を含む新規指導医申請について、申請書案が提案され、承認された。
- ・施設認定の状況として、2020年1月1日現在、認定施設94施設、教育関連施設A57施設、教育関連施設B42施設と報告された。また、HPに掲載する小児外科研修施設としてのリストが提案され、小児外科医を目指す方へのページに新たに掲載することが承認された。
- ・特定教育関連施設について、再度審議が行われ、年数や細かい点を再度専門医制度委員会で検討の上、2月13日に行われる総合調整委員会で報告し、3月12日の理事会で再度審議することとした。
- ・専門医制度の過去の書類に手術台帳が保管されている場合は、破棄した方がいいとい

う点が確認された。

(4) 機関誌委員会（大植担当理事）

大植担当理事より、以下の点について報告され、承認された。

- ・投稿論文の採択状況が報告された。
- ・転載許可希望が報告された。
- ・査読を依頼した査読者以外から査読内容に関する回答や質問が委員長・編集部宛てに寄せられるなど、査読者の守秘義務違反が疑われる案件が複数あることが報告され、査読者には守秘義務があり、上司や部下に対してもその内容を漏らすことは守秘義務違反に当たることを明記する形で手引きの修正を行うこととした。
- ・特別会員の手戸先生と鮫島先生の追悼文の執筆者が検討された。

(5) 国際・広報委員会（田尻担当理事、淵本委員長）

田尻担当理事および淵本委員長より、以下の点について報告・提案がされ、承認された。

- ・各委員会に募っていたホームページの更新要望について、進捗が報告され、おおよそ2月中旬までに対応可能予定であると報告され、更新の際にはテストページで確認が出来るようにしてほしいと要望が上がった。トップページに掲載してほしいという要望に関しては、ホームページが複雑化することも考えられるため、引き続き検討することとした。
- ・小児外科専門医のいる病院については、施設名と住所と電話番号、そしてそこで勤務する小児外科専門医の名前を載せたリストをPDFで作成して、全面改定を行うことが承認された。また、小児救急のアンケート内容については別ページに掲載することとして、別途検討することとした。
- ・2月13日の総合調整委員会に再度進捗を報告することとした。

(6) 保険診療委員会（浮山担当理事、古田委員長）

浮山担当理事および古田委員長より、以下の点について報告・提案がされ、承認された。

- ・NO 吸入療法に関する検討結果が報告され、結論としては現状、要望書の提出ということをする必要がないと報告された。

(7) 教育委員会（大植担当理事）

大植担当理事より、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・次回卒後教育セミナーの目次について報告された。
- ・卒前アンケートの回収率について報告があり、未提出の施設に対して督促を行っており、今年の学術集会までに結果をまとめる予定である。
- ・「奇形」を含む医学用語の置換えに関するワーキンググループの第1回に参加したことの報告があり、今後の方針について報告された。

(8) 悪性腫瘍委員会（大植担当理事）

大植担当理事より、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・日本小児血液・がん学会学術調査委員会と日本小児外科学会悪性腫瘍委員会の委員長会議が開催され、意見交換を行ったことが報告された。

(9) 学術・先進医療検討委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・ホームページリニューアルの修正要望書の提出をした。

- ・日本小児科学会への疾患データベースの情報提供として、新生児外科全国集計の概要について情報提供を行った。

- ・新生児全国調査の進捗状況について報告された。

- ・野村総合研究所からのアンケート依頼について、日本医療研究開発機構（AMED）で採択された「ライフステージにおけるヘルスケア・医療機器動向調査支援業務」に関するアンケート（生殖・妊娠期から学童・思春期までの成育サイクルにおけるライフコースアプローチによる疾患や健康課題解決に向けたヘルスケア・医療機器開発）の依頼があり、委員で意見を募って整理した結果が4つ報告され、この4つの内容で提出することが承認された。

- ・学会企画演題提案について、各カテゴリー毎に3年計画の演題が提出された。

(10) 倫理・医療安全管理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・「高吸収性樹脂玩具の誤飲に対する注意喚起」の文章がHPに掲載されたと報告された。

- ・第57回学術集会以で行う医療安全講習会の講演抄録が受け取ったと報告された。

(11) データベース委員会（田中担当理事）

田中担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・食道閉鎖症根治術の術後合併症発生のリスク因子解析：患者背景、手術アプローチが術後成績に影響を与えるかの検討について、研究倫理的委員会での検討結果を申請者に伝え、回答があり、データベース委員会で承認したと報告があり、事後承認された。

- ・NCDデータを利用した複数領域にまたがる新規研究課題フローチャートが提出され、現在の進捗状況が報告され、外科学会から解析プロトコルの提出依頼があったと報告された。他団体が絡み採択までの日数が長いと、来年度は申請締め切りを早めにお知らせする方向で準備すると報告された。

(12) 小児救急検討委員会（田中担当理事）

田中担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・小児外科専門医宛にDMAT研修修了者調査のアンケートを行う予定である。

- ・2019年 PALS 講習会参加者に対するアンケート調査を行う予定である。
- ・2020年度の PALS 講習会の日程の候補について報告され、特に問題無いことが確認された。

(13) ワークライフバランス検討委員会（浮山担当理事）

浮山担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・外科医労働環境改善委員会で検討された「医療機関における医師業務のタスク・シフト/シェア項目の安全性等の確認について」を12月3日に日本外科学会から厚生労働省に提出されたことが報告された。

(14) トランジション検討委員会（田中担当理事）

田中担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・移行期支援患者サマリを作成したと報告があり、HP上に掲載する予定であると報告された。
- ・認定施設宛にトランジション実態調査のアンケートを実施予定であると報告があり、承認された。学術・先進医療検討委員会にまずは申請を行った後、回収率を高めるために郵送で送り、FAX返信の形でアンケートを回収する方針で進めることとした。

(15) 規約委員会（金森担当理事）

金森担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(16) 研究倫理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・第57回学術集会の演題募集に倫理規定についてのチェック項目が試行されたと報告された。

(17) NCD連絡委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より、以下の点について報告がされ、承認された。

・小児外科学会術式一覧の改訂検討について、「NCD術式」が毎年更新されるのに対し、「小児外科学会術式一覧」は過去数十年間見直されることなく、内視鏡外科手術術式の増加などに対応できていないと報告があり、そのため委員会内でのメンテナンスや、学会員からの問い合わせへの回答で苦慮している現状が報告された。「小児外科学会術式一覧」の抜本的な見直しについては、専門医制度委員会を中心にした再検討が必要ではと提案があり、まずはNCD連絡委員会委員長と専門医制度庶務委員長でweb会議を実施して検討を進めることとした。

- ・NCD仕様の改訂と動作確認について報告された。
- ・Q&Aについて、NCD登録に際した学会への問い合わせは、2019年度は16件寄せられ、各々につき委員会内で検討して15件に対して回答した（1件保留中）。同時に過

去の問い合わせについても見直しを行い、毎年のNCD仕様（術式等）の変更や、新たな検討に伴って回答内容が実情にそぐわなくなったものの改訂・更新を行い、これらはNCDホームページ、学会ホームページ上のNCD登録関連ページへの反映を依頼した。

・Auditとサイトビジットについて、2017年症例数の上位20施設から乱数表を用いて選ばれたNPO岡山医療センター、自治医大栃木こども医療センター、埼玉県立小児医療センター、神奈川県立こども医療センターの4施設に対し、10月末から依頼手続きを開始し、4施設ともに事前の各種手続きはほぼ終了し、2月初旬から順次実施予定である。

・NCD小児外科領域アニュアルレポートについて、2017年アニュアルレポートは、ワーキンググループ内での検討で解析に関わる委員および委員補佐の負担軽減と、NCDデータを用いた個々の臨床研究推進を念頭に項目削減を敢行し、この結果を暫定データとして第56回日本小児外科学会学術集会において発表したところ、前年まで出していた「小児の虫垂炎、鼠径ヘルニア手術における、小児外科学会専門医が関与していない割合」のデータも継続して収集をしてほしいという意見があったことが報告され、この意見をふまえ、2020年初よりannual report 2018の解析項目案の改訂作業を開始した。可能ならば2017年分も振り返って、併せて2年分の解析を行う予定である。

・小児外科専門医の地域ごとの適正数を判断するための基礎データについて、「小児外科専門医の地域ごとの適正数を判断するためのデータがNCDデータから示せるかどうかを検討する」よう、総合調整委員会から指示があり、委員会案を作成した。この案は2019年12月11日の総合調整委員会で検討され、若干の修正と要望のもとで方向性が承認され、今後NCD事務局との間で具体的な手順や費用など細部を詰める予定である。

(18) ガイドライン委員会（金森担当理事）

金森担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・学会主導ガイドライン作成について、進捗が報告された。
- ・小児外科診療に関するガイドライン等の情報提供について、HP掲載候補を検討中である。
- ・来年の第58回学術集会で、ガイドラインに関するセッションを企画していただく様に要望をした。

(19) 利益相反委員会（金森担当理事）

金森担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・日本医学会 COI 管理ガイドラインの一部改訂案に関してのアンケートに回答したことが報告された。

(20) 総合調整委員会（増本委員長）

増本委員長より資料に基づき、以下の点について検討を行ったと報告がなされた。

- ・各学会の将来計画・あり方と日本医学会連合に対する評価・要望等に関するアンケートについて
- ・専門医制度委員会からの報告について
- ・正味財産増加案について
- ・学術集会のあり方について
- ・理事会のあり方について
- ・学会としての小児外科専門医の地域ごとの適正数の検討
- ・小児外科関連研究会の今後のあり方についての提言
- ・学生、若手医師のリクルート・育成するための具体的方策は何か
- ・海外における手術症例を利用した専門医・指導医育成システム作りについて
- ・ロタウィルスワクチン定期接種化について
- ・日本医学会医学用語の件

(21) 日本外科学会理事会報告（越永前理事長）

越永前理事長より資料に基づき、以下の点について報告がなされた。

- ・外科専門医更新料が内税方式から外税方式に変更になる。
- ・代議員選挙についての進捗状況が報告された。
- ・国際医療福祉大学成田病院の日本外科学会研修プログラムは日本専門医機構で認められず、代替案を検討している。

(22) 四者協報告（越永前理事長）

越永前理事長より資料に基づき、以下の点について報告がなされた。

- ・成育基本法についての進捗状況について
- ・ロタワクチンについて

8) 日本小児保健協会所管委員会の委員改選に伴う推薦依頼について（田尻理事長）

田尻理事長より資料に基づき、日本小児期外科系関連学会協議会事務局から日本小児保健協会の所管委員会委員の改選時期にあたり、委員の継続の可否や委員の推薦についての依頼があり、「子どもとICT、子どもたちの健やかな成長を願って」委員会については越永委員と濟陽委員に引き続き委員継続をお願いすることとし、健康診査委員会は渡井委員から浮山理事に変更、発達障害への対応委員会には田中理事、小児科と小児歯科の保健検討委員会には渡井評議員に打診することが承認された。

9) NCD 理事会報告（越永前理事長）

越永前理事長より資料に基づき、12月2日に行われたNCD理事会について報告があり、引き続き行われた社員総会において本会の理事が越永前理事長から田尻理事長に変更することが承認されたと報告された。また、NCDの会計規程が作成されたと報告された。

4. 報告事項

1) 理事長報告（田尻理事長）

（1）第4回メール審議報告（今年度の複数領域新規研究課題について）について、全会一致にて承認されたことが報告された。

（2）第5回メール審議報告（「高吸収性樹脂素材の誤飲についての注意喚起」の文章のHP掲載について）について、全会一致にて承認されたことが報告された。

（3）第6回メール審議報告（NCDデータを利用した複数領域にまたがる新規研究課題の申請の件について）について、全会一致にて承認されたことが報告された。

（4）第7回メール審議報告（さいたま医療ものづくりフォーラム2020に係る後援依頼について）について、全会一致にて承認されたことが報告された。

（5）神奈川県医師会からの寄贈本「神奈川医学雑誌第46巻第2号」を受領した。

（6）外科関連専門医制度委員会からの寄贈本「令和元年度第2回日本外科学会専門医制度委員会議事次第」を受領した。

（7）外科系学会社会保険委員会連合からの寄贈本「外保連試案2020」を受領した。

（8）厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.367」を受領した。

（9）厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.368」を受領した。

（10）厚生労働省からの寄贈本「高齢者の医薬品適正使用の指針」を受領した。

（11）第30回日本医学会総会からの寄贈本「第30回日本医学会総会2019中部会誌」を受領した。

（12）難病医学研究財団からの寄贈本「難病研究財団ニュースNo.51」を受領した。

（13）難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ！Vol.177」を受領した。

（14）難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ！Vol.178」を受領した。

（15）日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER11月号」を受領した。

（16）日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER1月号」を受領した。

（17）日本製薬工業協会からの寄贈本「製薬協ニューズレターNo.194」を受領した。

（18）日本専門医機構からの寄贈本「日本専門医制度概報【令和元年（2019年）度版】」を受領した。

（19）日本整形外科学会からの通信文「「腹腔外発生デスマイド型線維腫症 診療ガイドライン」発行のご挨拶」を受領した。

（20）日本大腸肛門病学会からの通信文「理事長交代のお知らせ」を受領した。

（21）外科関連専門医制度委員会からの通信文「令和元年度第2回日本外科学会専門医制度委員会議事録」を受領した。

（22）日本産科麻酔学会からの通信文「一般社団法人移行のご挨拶」を受領した。

（23）日本胸部外科学会からの通信文「理事長交代のお知らせ」を受領した。

（24）がんの子どもを守る会からの通信文「後援事業の終了報告書」を受領した。

（25）日本臨床栄養代謝学会からの通信文「学会名称変更のお知らせ」を受領した。

（26）第58回日本小児歯科学会大会からの通信文「第58回日本小児歯科学会大会開催のご案内」を受領した。

(27) 日本医学会からの通信文「ゲル充填人工乳房及び皮膚拡張器植込み患者等に対する情報提供の徹底について」を受領した。

(28) 日本医学会からの通信文「薬剤溶出型冠動脈ステント及び薬剤塗布型冠血管向けバルーン拡張式血管形成術用カテーテルに係る使用上の注意の改訂について」を受領した。

(29) 日本医学会からの通信文「医薬品の適応外事例にかかる保険診療上の取り扱いについて」を受領した。

(30) 日本外科学会からの通信文「日本専門医機構におけるサブスペシャリティ運用細則等について」を受領した。

(31) 日本医学会からの通信文「「医療機器製造販売後リスク管理計画の策定について」の一部改正について」を受領した。

(32) 日本医学会からの通信文「医療機器の添付文書の記載例について（その9）」を受領した。

(33) 日本医学会からの通信文「第8回厚生労働省 ICF シンポジウム「ICD-11 と ICF 利活用の新たなステージを展望する」～かつてない超高齢社会を向かえる日本の挑戦～開催への協力について」を受領した。

(34) 日本医療研究開発機構からの通信文「成育・女性の健康関係の学会・団体の方々へ公募開始のご案内」を受領した。

(35) 日本小児期外科系関連学会協議会からの通信文「成育基本法検討委員会に提出する要望募集の件」を受領した。

(36) 日本医学会からの通信文「臨床研究法の施行等に関する Q&A（統合版）について」を受領した。

(37) 日本医学会からの通信文「ゲル充填人工乳房及び皮膚拡張器植込み患者等に対する情報提供文書の改訂について」を受領した。

(38) 日本医学会からの通信文「アテゾリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（非小細胞肺癌）の一部改正について」を受領した。

(39) 日本医学会からの通信文「アテゾリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（乳癌）の作成について」を受領した。

(40) 日本医学会からの通信文「国立研究開発法人科学技術振興機構からのお知らせについて」を受領した。

(41) 日本医学会からの通信文「緊急避妊に係る診療の提供体制整備に関する取組について」を受領した。

(42) 日本医学会からの通信文「植込み型医療機器等の MR 安全性に関する質疑応答集（Q&A）について」を受領した。

(43) 日本医学会からの通信文「在宅使用が想定される人工呼吸器等に係る「使用上の注意」の改訂について」を受領した。

(44) 日本医学会からの通信文「オマリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（季節性アレルギー性鼻炎）について」を受領した。

(45) 日本小児期外科系関連学会協議会からの通信文「四者協からの成育医療等協議会への要望」を受領した。

(46) 日本医学会連合からの通信文「各学会の将来計画・あり方と日本医学会連合に対す

る評価・要望等に関するアンケート」を受領した。総合調整委員会で検討した内容で提出したことが報告された。

(47) 日本医学会からの通信文「アベルマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（腎細胞癌）の作成及び最適使用推進ガイドライン（メルケル細胞癌）の一部改正について」を受領した。

(48) 日本医学会からの通信文「ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（腎細胞癌, 頭頸部癌）の作成及び最適使用推進ガイドライン（非小細胞癌, 悪性黒色腫, 古典的ホジキンリンパ腫, 尿路上皮癌及び高頻度マイクロサテライト不安定性（MSI-High）を有する固形癌）の一部改正について」を受領した。

(49) 日本医学会からの通信文「「情報通信機器（ICT）を利用した死亡診断等ガイドライン」に関する Q&A の改訂について」を受領した。

(50) 日本医学会からの通信文「「情報通信機器（ICT）を利用した死亡診断等ガイドライン」に関する Q&A について（廃止）」を受領した。

(51) 「第 2 回サブスペシャルティ学会理事長との協議議事録」を受領した。

(52) 「神経芽腫マスキング休止後の神経芽腫発生状況に関する研究」の 2020ANR（アムステルダム）における演題抄録を受領した。論文化される際には事前に報告してもらうように研究代表者に伝えたと報告された。

2) 次回定例理事会日程の確認（田尻理事長）

次回理事会は令和2年3月12日（木）11：00～16：00 大阪大学東京オフィスにて開催することが確認された。次回理事会では2019年度の事業報告および2020年度の事業計画について審議をする予定であること、例年評議員会資料として集めている委員会報告を次回理事会で事前に確認するスケジュールが確認された。

理事長 _____

副理事長 _____

理事 _____